

## パネリスト評価調査報告

小松原 尚

### I 調査の目的

経済地理学や地域構造論の講義を踏まえ、地域における体験的学習を実施する際には、外部講師による講演は、教育効果を高める上で大切である。こうした学習活動を実のあるものにするためには、学生が講演内容をどのように受けとめたかを実態に則して計測し、指導の際の参考にするための調査が必要になる。

その課題への接近のために、パネルディスカッションを利用し、その場において、学生が、パネリストがどのような発言をし、その発言のその場における関連性をどう掴んだかを調査することにした。そのために「パネルディスカッションでのパネリスト評価調査」を実施した。

尚、上記の目的のためのパネリスト評価であるから、パネリストのディスカッションにおける貢献度そのものを計測するものではないことは言うまでもない。念のため申し添えておく。

### II 調査の方法

和歌山市にて開催された「第10回国内観光活性化フォーラム in 和歌山」を利用して実施した。このフォーラムに際して実施された「観光振興と未来の創造」をテーマとしたパネルディスカッションを利用した。予め評価項目と観点を以下のように定め、それに沿って学生が評価することによって、各

## 調査報告

パネリストの発言の論旨の把握状況を掴むことにした。

	評価観点	内 容
①	適合性	発言内容が、パネルディスカッションのテーマとどの程度整合性があるか。
②	協調度	発言内容が他のパネリストの発言をどの程度踏まえているか。
③	斬新性	発言内容から、新たな知見をどの程度得られたか。
④	総合評価	パネリストに以上の評価を総合して、順位を付ける。同点はなし。1位から1人ずつとする。また、その理由を記す。

これに基づき、パネリスト1人1人に対して、上記の①、②、③の評価を行い、その結果を総合して、④の順位を付ける。同点はなし。1位から1人ずつとする。また、その理由を記すこととした。そして、この調査においては、小松原のゼミ分属の学生を教育研究補助者と位置付け、協力を得た。

### Ⅲ 調査の実施

期日：2014年2月11日（火・祝）午後2時から午後3時30分まで

※ 本調査は、平成25年度文部科学省大学改革推進等補助金の一部を使用した。

①適合性：発言内容が、パネルディスカッションのテーマとどの程度整合性があるか。

パネリスト氏名	評価内容
菊間 潤吾 一般社団法人 日本旅行業協会会長	テーマに対し、日本旅行業協会会長の立場から発言していた。
	外国人旅行者は年々増え続けているが、今年は出国率が現象した。今年は出国率も上昇するよう観光業は務めるべきであると述べた。
	観光客の増加は行政主導によって成し得たものである。
	海外との関わりを中心に、様々な視点から観光について述べていた。
	日本においては、出国率が低いことと地域格差が問題である。

	訪日増加に伴い、品質の向上も求められる（ツアークオリティジャパン）。日本は出国率が低いため、観光の課題として、国内外双方へのアプローチが必要であると述べた。これは観光をめぐる課題と現状のテーマに合致している。
	海外に対する国内の需要が下がっているわけではないと前置きし、今後訪日・海外旅行者 2000 万人を目指すといった将来的な目標を述べていた。
	訪日外国人 1000 万人を達成した日本だが、さらなる増加を見据え、観光をアピールする時代だと述べている。特に、高野山はもっと世界に宣伝すべきと述べている点、整合性がある。

パネリスト氏名	評価内容
久保 成人 観光庁長官	テーマに合ったデータや具体的な取り組みを上げていた。
	日本に来た外国人観光客に対し行政がすべきこと、そして旅の「安全」を保証することが大切だと述べた。
	行政と各方面の連携が重要だ。
	これまでの観光の歴史やオリンピックに向けての課題が述べられていた。
	地元の魅力を認識し、磨き上げ伝えていく事が観光振興には不可欠。
	訪日 1000 万人を達成し、次は訪日 2000 万人を目指す。2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックは日本オリンピックとして日本中の地域間の連携が重要であると述べた。これは観光をめぐる課題と現状のテーマに合致している。また、観光振興の将来について訪日 2000 万人を達成するために航空ネットワークと空港の機能強化が必要であると述べた。
	「国内旅行、地域の魅力作りに努め、連携の場を設けなければならない」等の、現状に沿った発言をしていた。
	地域においては観光でキーワードとなるのは“連携”とし、日本およびアジアにおいては大観光時代であると今後の観光振興を展望している点、整合性がある。

パネリスト氏名	評価内容
芹川 洋一 日本経済新聞 専務執行役員 論説委員長	日韓の話について発言していた。
	観光は国を超え分業することが大切だと述べた。
	二階氏が素晴らしいので新聞にした。
	観光というよりも、国際分業といった国際関係について述べられていた。
	観光においての理想は生産と消費が違う国で行われることである。
	製造が国内から国外へ移行している。第 2 回アンバウンドがきていると述べた。
	日韓関係について、政治問題で揉めていても交流をやめてはいけない、国際分業を進めるべきだと今後の方針を示していた。
	生産と消費が離れたことを課題として述べ、また、それによって日中韓の経済はつながるという未来の予想をしている。

## 調査報告

パネリスト氏名	評価内容
田中 理恵 ロンドンオリンピック 女子体操日本代表	オリンピック招致に参加しての感想を話していた。
	オリンピック招致についてコメント。
	自身が経験した東京オリンピックの招致から、日本の魅力について述べられていた。
	2020年の東京オリンピック招致は、国民とともに勝ちえたものである。
	観光の課題については述べていないが、オリンピック招致活動の中で東京の素晴らしさを再確認したと述べていることから、日本の観光の現状をよく理解している。
	東京オリンピック・パラリンピック招致に携わった経験談からおもてなしの心を繋ぐ必要性について課題提起していた。
	観光については、整合性がみられなかった。未来の創造という点は、オリンピック選手の育成やスポーツの素晴らしさを伝えたいと述べている。

パネリスト氏名	評価内容
張 西 龍 中国国家観光局 (東京) 首席代表	日本と中国の問題について話していた。
	現在中日間では様々な問題があるが、お互いの交流を深めるべきだと述べた。
	皆さんの努力によって我々は観光を拡大したい。
	日本の近隣国として、交流による互いの意識について重視していた。
	人と人との交流の拡大により、日中間の問題をなくしていきたい。
	これからの観光振興のために、人の交流・観光交流で仲を深めるべきであると述べた。
	2012年に日中国交正常化40周年を迎えられたことは、代表同士の仲が良かったため。
	観光交流を通し日本と中国双方の関係を深めたいとの発言があった。
	日中関係が取り沙汰される現在だが、観光や人との交流があるのでそれが平和にとって重要であると今後の観光振興をすすめる思いを述べている。

パネリスト氏名	評価内容
二階 俊博 一般社団法人全国 旅行業協会会長・ 衆議院議員	ディスカッションの枠組みとなる話をしていた。
	観光をするには平和でなければならない、という視点から国土の強朝化、アジア都の交流の大切さを訴えた。
	観光産業振興のためには平和であることが重要である。
	テーマについての現状や今後の課題などはっきりと明示していた。この方を中心にディスカッションが進められていた気がした。
	観光産業は地域発展に大きく貢献しており、その認知が観光の向上にもつながる。

	<p>国土強靱化をベースに災害時の旅行業者の対応について、日本の観光振興の将来の在り方について述べていた。</p> <p>「アジアの中の日本を足掛かりにして世界に発信していく」というような将来的なビジョンも含め、整合性のある発言をしていた。</p> <p>観光は平和産業とみなし、観光振興には旅行業の防災意識も考えるべきと述べている点、テーマとの整合性がある。</p>
--	--

パネリスト氏名	評価内容
<p>仁坂 吉伸</p> <p>和歌山県知事</p>	和歌山県の話だけで終わってしまうことがあった。
	和歌山県の観光の発祥について述べた。
	和歌山の観光資源とその可能性について。
	観光をめぐる現状として和歌山県の具体例を多く用いていた。
	観光を振興する上では、地域住民が地域に誇りを持つことが大切である。
	今回、国内観光活性化フォーラムが開催された和歌山がさまざまな文化の発祥の地であることを述べていた。旅行業の発祥地も和歌山であることも述べていた。今回のパネルディスカッションのテーマとは少しずれた内容だったように思う。
	和歌山のPRを通し観光振興の在り方についての発言があった。
	和歌山発祥のものを紹介し、今後もそれを広める寛大さや語り部の存在を重要としている点、整合性がみられる。

パネリスト氏名	評価内容
<p>朴 三 求</p> <p>錦湖アジアグループ 会長</p>	日本と韓国の関係の問題について話していた。
	日本と韓国で協力すべきだが、まだまだ日本の協力者が少ないと述べた。
	二階氏と協力している。
	観光を社会経済へとつなげるといった、広い視野で述べられていた。
	観光交流は世界経済の活性化に寄与する。また、観光は雇用効果も見込める。
	日韓関係について述べており、国際観光交流は世界に大きな影響を与えると述べた。また、観光交流で日韓関係を良くしていけるのではないかと述べた。
	観光分野の発展は出生率低下の解消にも繋がるのではないかと日韓に渡って生じている課題について触れた。
観光交流は、世界経済の活性化につながるとし、具体的には、観光で消費を増加させることができると考えている。	

## 調査報告

②協調度：発言内容が他のパネリストの発言をどの程度踏まえているか。

パネリスト氏名	評価内容
菊間 潤吾  一般社団法人 日本旅行業協会会長	他の人の発言に、より観光に寄せた意見を加え、発言していた。
	久保さん、二階さんの発言に触れ、観光業のすべき課題を述べた。
	久保氏の発言を受けて、官主導の成果であると強調。
	二階さんの発言に賛同していた。
	満足度の高い旅行を作る必要がある。
	日中国交正常化40周年を迎えたという張さんの発言に対し、「当時の日中関係はあまり良くなかったが、両国の代表の仲が良かったため実現した。このときに、民間交流・観光交流の大切さを感じた。」と述べた
	久保氏の「訪日観光者1000万人越え達成は一朝一夕にして成ったわけではない」という発言を受け、訪日・海外旅行者2000万人達成の次なる目標を述べた。
	二階氏の発言と関連させていた。

パネリスト氏名	評価内容
久保 成人  観光庁長官	他の人の発言を深め、より具体的に話していた。
	二階さんの外国との取り組みについて言及した。
	観光客1000万人突破の説明。行政はサポーターであるとした。
	二階さんの「観光は平和産業である」といった発言をくんでいた。
	日本が魅力的である理由の上位は、安心・安全のイメージがあるからである。
	国土強靱化計画の考えをもとに、これからは訪日外国人の安全を守ることが大切であると述べた（災害時にどう対応するかを考える必要がある）。二階氏の発言と関連させていた。

パネリスト氏名	評価内容
芹川 洋一  日本経済新聞 専務執行役員 論説委員長	二階氏や朴氏の発言を踏まえていた。
	朴さん、張さんの発言を元に国を超えた分業について述べた。
	自身の新聞記事について説明。二階氏の発言に賛同。
	あまり踏まえていない印象をもった。
	日韓の交流行事により、ぎすぎすした関係を前に進めることが出来る。
	他のパネリストの発言に対して発言していない。
	二階氏の発言を受けて、日中韓の連携が必要だと発言していた。政治的に揉めていても観光交流はやめるべきではないと述べた。
	二階氏の発言と関連させていた。

パネリスト氏名	評価内容
田中 理恵 ロンドンオリンピック 女子体操日本代表	特に他の人の発言を踏まえていなかった。
	東京オリンピック招致成功の報告。
	自身の経験談を中心に述べていた。
	日本は、おもてなしの心が素晴らしいとわかってもらえたことが五輪招致成功の要因。
	他のパネリストの発言に対して発言していない。
	二坂氏の「和歌山のおもてなしの心」という発言を受けて、自身が東京オリンピック・パラリンピックの招致に携わった経験から将来を担う子供たちへおもてなしの心を繋ぎたいと語っていた。
発言数が少ないこともあり、他のパネリストの発言はふれていなかった。	

パネリスト氏名	評価内容
張 西 龍 中国国家観光局 (東京) 首席代表	全体の流れを踏まえ、中国国家観光局からの意見を述べていた。
	二階さんの取り組みについて触れた。
	両国は観光理解を進めるべきであるとした。
	あまり踏まえていない印象をもった。
	外客誘致は、国際関係の修復にもつながる。
	他のパネリストの発言に対して発言していない。
	二階氏の発言を受けて、「人の交流・観光交流を通じてますます中日間の理解を深めたい、深めるべきだ」と述べた。
二階氏の発言と関連させていた。	

パネリスト氏名	評価内容
二階 俊博 一般社団法人全国 旅行業協会会長・ 衆議院議員	トークの流れを作るための発言をしていたため、他のパネリストの発言に対する意見などは聞くことができなかった。
	二階さんの発言がパネルディスカッションにおいて多くの人に引用された。
	「観光は平和産業である」とする持論を展開。
	テーマについての流れを作っていた。ディスカッションの中心的存在であり、あまり他者の発言は踏まえていない。
	観光は、平和産業であり、戦争が行われている国には観光客は来ない。
	他のパネリストの発言に対して発言していない。
	他のパネリストの発言を踏まえることよりも、積極的にテーマを投げかけた発言が多かった。
	他のパネリストの発言を踏まえている感じがしなかった。

## 調査報告

パネリスト氏名	評価内容
仁坂 吉伸 和歌山県知事	和歌山県の話を中心に、他の人の発言を少々踏まえていた。
	和歌山の観光には触れたが、他のパネリストの発言にはあまり言及していない。
	和歌山の観光資源を説明。二階氏の「観光は平和産業」に賛同。
	あまり踏まえていない印象をもった。
	観光業の心である、寛容の心を持つべきである。
	他のパネリストの発言に対して発言していない。
	議論内容と無関係ではないが、和歌山のPRが主であり周囲の発言から逸脱した部分があったように思う。
	あまり踏まえている感じがなかった。

パネリスト氏名	評価内容
朴 三 求 錦湖アジアナグループ 会長	二階氏の発言を踏まえ、発言していた。
	特に他のパネリストの発言には触れていない。
	「日本への旅行者が韓国より少ない」とする問題提起。
	二階さんが日韓交流に貢献したと述べられていた。
	平和産業である観光によって日韓の関係も改善できる。
	他のパネリストの発言に対して発言していない。
	二階氏の発言を受けて、日韓の観光協力が必要だと語った。また「観光交流は世界的な経済発展に大きく寄与する」と発言していた。
	二階氏の発言および活動内容と関連させていた。

### ③斬新性：発言内容から、新たな知見をどの程度得られたか。

パネリスト氏名	評価内容
菊間 潤吾 一般社団法人 日本旅行業協会会長	旅行も地域間に差があること、国内、海外、訪日旅行についてのイベントが行われていることが分かった。
	外国人観光客が増え続けているということは初めて知った。
	旅行業界としては行政に感謝しているということが分かった。
	今年は海外渡航自由化50周年ということから、都市部だけでなく地方における双方向の国際化が重要だと述べられた。
	韓国や台湾と比べて、日本は出国率が非常に低い。
	日本の出国率が低く、地域によっては10%未満であるということ。



	「訪日・海外旅行 2000 万人達成のためには地方の活性化は避けられない」との発言があった。現在の外国人観光客 1000 万人からその 2 倍を目指す為には、都市部の発展だけでは不十分であるということだろう。
	外国人観光客が増えると地方の活性化が期待できるという点が印象に残った。

パネリスト氏名	評価内容
久保 成人 観光庁長官	訪日観光が課題であることが分かった。
	空港の強化は必要だと思った。
	行政だけでは成し得ないことの方が多いうことが分かった。
	今後 20 年間で観光は爆発的に伸び、それに向けてのこれからの課題を具体的に述べられていた。
	東南アジアは今後 20 年爆発的に増加すると言われている。
	北東・東南アジアの観光が爆発的に伸びる（大観光時代が到来する）ということ。
	「東京オリンピックは東京だけに留めず日本オリンピックと考えるべきである」との発言があった。まさにその通りで、あえて指摘することで改めて、日本オリンピックとしての東京オリンピックの考えを促したのだろう。
東京オリンピックを日本オリンピックと考えようと述べている点が印象に残った。	

パネリスト氏名	評価内容
芹川 洋一 日本経済新聞 専務執行役員 論説委員長	特に新たなものは得られなかった。
	国を超えた分業の利点がわかった。
	二階氏が韓国と相互理解を進めていること。
	日本・中国・韓国を中心に一体間をもつことの重要性を知った。
	日韓が、偏狭なナショナリズムに陥らないようにしつつできるだけ前を向くことが大切。
	製造が国内から国外へ移動しているということ。
	国を超えた分業、国際分業をますます行っていくことで友好関係を深めるべきだと述べていた。技術力を分かち合い切磋琢磨することがゆくゆくは世界経済の発展に繋がるであろう。
アジア経済が一つになるなど、産業の空洞化による今後の展望を知ることができた。	

## 調査報告

パネリスト氏名	評価内容
田中 理恵  ロンドンオリンピック 女子体操日本代表	オリンピック招致には、日本のおもてなしの心がキーであること。
	東京オリンピックにかける選手側としての意気込み。
	他国から見た日本はどのようなものか知ることが出来た。
	東京オリンピックで、日本の良いところをもっと知ってもらいたい。
	特になし。
	新たな知見は得られなかった。

パネリスト氏名	評価内容
張 西 龍  中国国家観光局 (東京) 首席代表	特に新たなものは得られなかった。
	これまでずっと中国との観光における連携があったことは知らなかった。
	中国観光局も観光を拡大したいと思っていること。
	中国側からの観光のみ方を知れた。
	日中間の問題をなくすために交流を拡大したい。
	2012年に日中国交正常化40周年を迎えたということ。
	政治的な採め事は絶えずあるものの、日中間の理解を深めるべきだとの発言があった。中国側としてもそのような見解であるならば心強く感じる。
	新たな知見は得られなかった。

パネリスト氏名	評価内容
二階 俊博  一般社団法人全国 旅行業協会会長・ 衆議院議員	観光は平和産業であるという知見が得られた。
	新たな知見は少なかったが、国土強靱化は必要だと思った。
	観光を平和産業として見ることができることを知った。
	「国土強靱化」を進めたなど、観光に大きく寄与している方だと知った。
	災害が起こった時に、逃げることを命令する法律が必要である。
	国土強靱化の考え。また、日本で努力してきたことは、中国をはじめとするアジア諸国と共有できることであるということ。
	「観光は平和産業である」との発言が真っ先にあった。戦時下では観光産業が一時衰退していた背景があり、的確な表現である。
	国土強靱化についてを知ることができた。

パネリスト氏名	評価内容
仁坂 吉伸 和歌山県知事	和歌山県が旅行のルーツであること。
	和歌山県の観光について、知らなかったことが多くあった。
	和歌山が歴史ある土地であることを知った。
	和歌山県が旅行の発祥の地であると初めて耳にした。
	和歌山が発祥であるものは、発酵文化・旅行業・観光業である。
	旅行業や発酵文化（みそ、しょうゆなど）のように、和歌山発祥のものが多くこと。
	「始まりは和歌山、伝えるのも和歌山」と和歌山について表現していた。発酵食品文化やかつおぶしの発祥の地が和歌山であると初めて耳にした。
和歌山の県民性が垣間見えた。発酵文化発祥の地というところが興味深かった。外国人は、日本文化の持つ精神性を求めて観光に来ることもあると知った。	

パネリスト氏名	評価内容
朴 三 求 錦湖アジアナグループ 会長	特に新たなものは得られなかった。
	特に新たな知見はなかった。
	二階氏との協力関係が厚いことが分かった。
	観光が経済に与える影響を知れた。
	韓国より日本の方がインバウンドが少ないことに対して考えなければならぬ。
	日韓関係の改善に観光産業が役立つ可能性があるということ。
	「観光分野は他のどの観光文化よりも大きな効果がある」と発言していた。日本でも基幹産業になっている観光だが、韓国でも同じように重要視されているらしいことが窺えた。
二階氏が、日韓の人の交流の立役者となっていたことをはじめて知った。観光分野は経済活性化につながるということがわかった。	

④総合評価：パネリストに以上の評価を総合して、順位を付ける。同点はなし。1位から1人ずつとする。また、その理由を記す。

パネリスト氏名	評価理由
菊間 潤吾 一般社団法人 日本旅行業協会会長	発言が、他のパネリストに比べ、圧倒的にテーマに適合していたことと、他の人の発言をよく踏まえていた。[1]
	旅行者の集まりである JATA の視点から、日本の観光のこれからをわかりやすく述べていた。[1]

## 調査報告

	ツアーオリエティジャパンの立ち上げや、地方の国際化の課題など、旅行業の取り組みについて知ることができた。[2]
	訪日外国人数・日本人海外旅行者数ともに2000万人突破に向けて、現実的に現状を把握する点がよかった。[4]
	海外・国内・訪日が三位一体になるべきだということが理解できたから。[3]
	日本の観光の現状だけでなく、日中国交正常化40周年についても、当時の状況を説明し、全体的にわかりやすい内容だったため。[3]
	訪日・海外旅行者2000万人を目指すための課題提起を行っていた。[6]
	訪日外国人増加のために、具体的な提案がされていれば良かった。[5]

パネリスト氏名	評価理由
久保 成人 観光庁長官	他のパネリストの発言を十分に踏まえ、具体的に話をしていた。[2]
	外国人観光客に対し、日本がすべきことを行政の視点から述べた。[3]
	訪日観光客が1000万人突破したこれからの方針を示し、観光の拡大には連携が重要であるとした。[3]
	観光の現状を踏まえて、今後20年先を見据えた課題を明確にしている点が良いと感じた。[2]
	観光の方向性について明確な課題を打ち出していて、斬新であったから。[1]
	東京オリンピックの在り方について言及した発言に説得力があった。[2]
	日本のこれからの観光振興について、連携していくことの重要性を述べている。今回の地域活性化のための調査でもわかったことだが、地域は高齢化や産業の衰退に悩まされている。このような現状をふまえ、地域や国の連携を今後のキーワードとしていることが明確にわかり、テーマにも沿っていると思ったため、高評価とした。[1]

パネリスト氏名	評価理由
芹川 洋一 日本経済新聞 専務執行役員 論説委員長	朴氏の補足となるような話しかしていなかったように思う。[7]
	国を超えた分業の大切さについて述べていたが、あまり新たな知見は無かった。[8]
	二階氏が韓国セヌリ党のバククネ氏と会談した件の、自身の新聞記事について説明した。[10]
	観光とは少し違った点から述べられていたが、国際間の関係について詳しく知ることができた。[6]
	生産と消費が違う国で行われるのが理想ということに納得できたから。[5]
	第二回アンバウンドが到来していることがわかったが、あまり観光との関連性を感じられなかったため。[10]
	日中韓の友好関係について力強く語っており、周囲からも拍手が起っていた。[3]

	産業の空洞化を良しとしているのは、今後の観光振興につながるのか疑問に思った。[6]
--	---

パネリスト氏名	評価理由
田中 理恵 ロンドンオリンピック 女子体操日本代表	一度しか発言が無かった上、オリンピック招致についての話だけだった。[8]
	東京オリンピックは協力によって勝ち取ったものであると表明した。歴史の1ページに関われたとした。[9]
	途中で退席したため、話を少ししか聞くことができなかったためでもあるが、もう少し観光に関連付けたお話をうかがいたかった。[8]
	オリンピック招致から和歌山活性化までさまざまなことに関わられているから。[7]
	オリンピック招致活動に参加されたときに感じたことを聞くことができたため。[8]
	東京オリンピック・パラリンピックの招致という貴重な体験談を語った。[7]
	発言数が少なく、評価にあたる情報が得にくかった。[8]

パネリスト氏名	評価理由
張 西 龍 中国国家観光局 (東京) 首席代表	他の人の発言を踏まえ、自分の立場から意見を言っていたが、テーマと完全に合致していなかった。[4]
	中国との観光に対し、お互いにより良くしようという考えがあることがわかった。[5]
	両国間の相互理解が重要であり、努力によって観光業を拡大したいとした。[8]
	時間の関係し仕上ががなかったが、もう少しお話をうかがいたかった。[9]
	日中間修復の姿勢がみられたから。[8]
	日中の関係について知ることができたため。[7]

パネリスト氏名	評価理由
二階 俊博 一般社団法人全国 旅行業協会会長・ 衆議院議員	トークの流れをつくっていた。[3]
	自身の考え方を貫き、そのために何をすべきかわかりやすく述べていた。[2]
	観光が平和産業であるという視点を示し、発言が最も引用されていた。[1]
	全国旅行業界会長として観光の現状と課題について強い入れ込みを感じる事が出来た。また、傍聴者の外国人を登壇に招きいれて意見を聞く機会をその場で作った点もよかった。[1]
	地震や津波の災害に関して法律を考案したから。[4]
「国土強靱化」について知ることができたため。今まで詳しく知らなかったこともあるが、災害時の旅行業の対応についても興味深い内容だったため。[2]	

## 調査報告

	ディスカッションの全体の流れを生み出す発言をしていた。他のパネリストが二階氏の発言に同調する様子があったことは否めない。[1]
	観光は平和産業であるから、旅行業界は防災意識が必要という意見に納得した。ただ、他との関連づけがなかった。[4]
	観光の重要性は述べているが、あまり具体的でなかった。[8]

パネリスト氏名	評価理由
仁坂 吉伸	あまり他の人の意見を踏まえていなかった。[6]
和歌山県知事	他のパネリストが日本という視点で述べているのに対し、和歌山というよりミクロな視点から観光のこれからを述べていた。[4]
	和歌山の観光資源の詳細な説明と、それを踏まえて二階氏の発言への理解を示した。[6]
	和歌山県の観光資源を中心に話されており、その点については詳しく知れたが、日本や世界全体に関する観光についてはあまり述べられていなかった印象をもつ。
	和歌山が発祥であるものは、発酵文化・旅行業・観光業である。
	旅行業や発酵文化（みそ、しょうゆなど）のように、和歌山発祥のものが多く。[7]
	和歌山の地域活性化のために即断即決の精神であったため。[6]
	発言は少しテーマとずれたところもあったように思うが、和歌山発祥のものがたくさんあるということを知れたため。[6]
	半ば和歌山のPRに徹している部分がありディスカッションの流れからは若干の逸脱がみられた。[8]
	和歌山の現状と課題、そしてこれからについてを、県民性の面から述べて聞き手をひきつけ、かつテーマに沿っていたので高評価とした。[2]

パネリスト氏名	評価理由
朴 三 求	二階氏の発言を踏まえていたが、トークテーマとあまり合致していなかった。[5]
錦湖アジアナグループ 会長	翻訳者を介しているからかもしれないが、内容に特に新たな知見が見られなかった。[8]
	二階氏の発言に賛成し、日本への旅行者が韓国よりも少ないことを問題提起した。[7]
	観光から消費の拡大に結び付け、経済的な話を述べていたが、今後の課題についてももう少しがいたかった。[9]
	韓国より日本のインバウンドが少ないことに対する考えに納得出来ないため。[8]
	日韓の関係修復に観光が役立つかもしれないという考えを得ることができたため。[8]

	<p>「かつては節約・質素が美德であったが今や消費が美德である」というような的を射た表現が目立った。[5]</p>
	<p>観光と国際的な交流を課題としているが、現状が述べられていなかった。[7]</p>

※ 各集約表はパネリストの氏名の五十音順とした。外国人は、日本語の音によることとした。